



第3次雲南市総合計画策定に係る タウンミーティング (地区別意見交換会)

令和6年7月12日（金）掛合交流センター

7月17日（水）加茂交流センター

7月18日（木）木次総合センター

7月22日（月）大東地域交流センター

7月23日（火）三刀屋交流センター

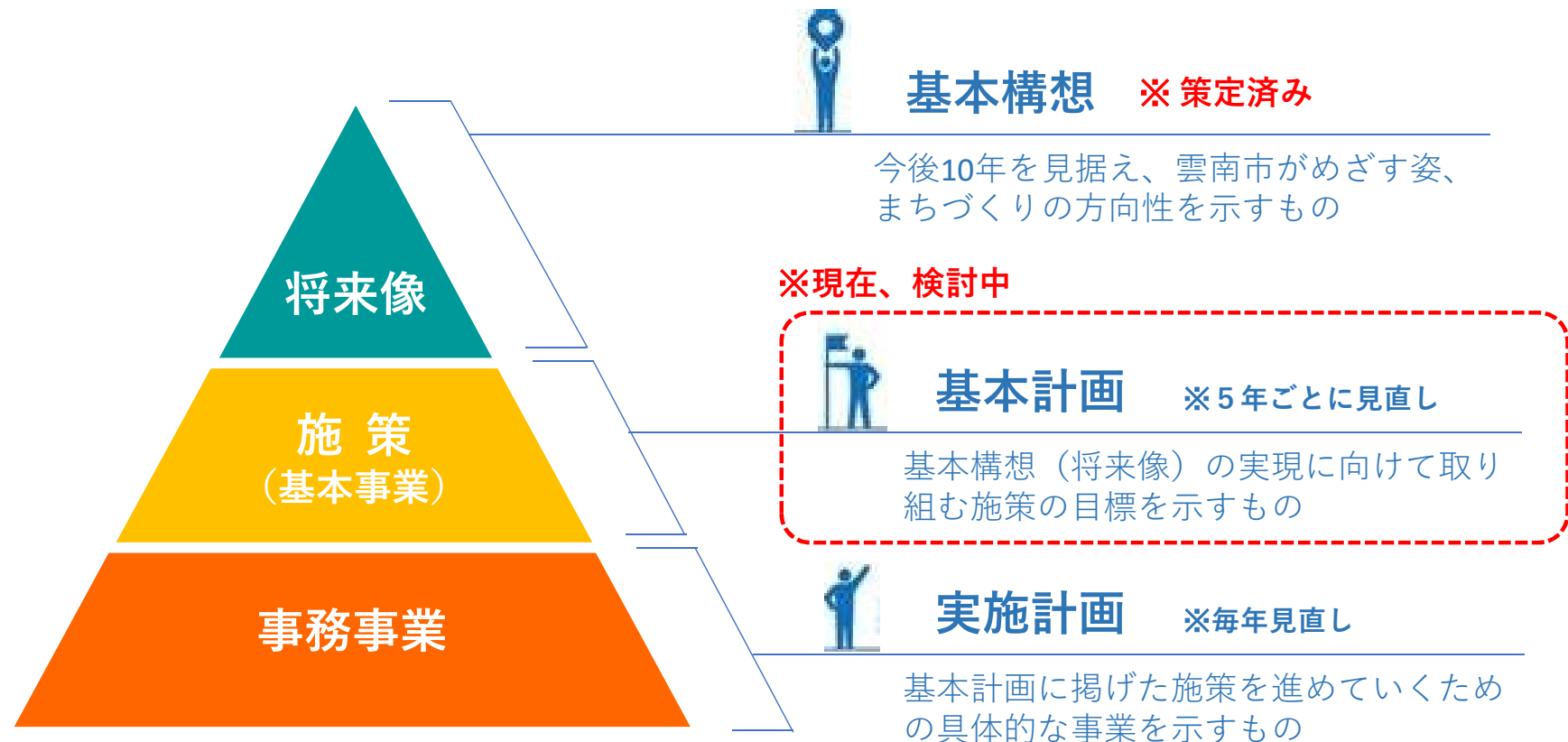
7月24日（水）吉田健康福祉センター

次第（19:00～20:30）

1. 開会
2. 基本構想の説明
3. 基本計画の検討状況
4. 閉会

1. 総合計画とは

総合計画は、次の10年間（令和7～16年度）の**まちづくりの方針や目標**を定める計画です。市が取り組む全ての事業の基となる「**最上位計画**」となります。



2. 第3次雲南市総合計画のデザイン案



3. 基本構想の構成



4. 基本理念（将来像の実現に向けた基本的な考え方、心構え）

変わらず、変える

変わらず、大切にすること

そのために勇気をもって変えること

5. 将来像（10年後の雲南市のめざす姿、つくりたいまちの姿）

えすこな 雲南市

Well-being for all UNNAN

～みんなが幸せに暮らせるまち～

6. 基本構想の「3つの柱」



近所の
あたたかな
縁側



安心な
暮らしが続く

えすこに **暮らす**

えすこに
おせっかい



6. 基本構想の「3つの柱」



えすこに **育む**



6. 基本構想の「3つの柱」



エネルギー、水、
自然が巡っている

おじいちゃん、おばあちゃんと
高校生、大学生と一緒に起業

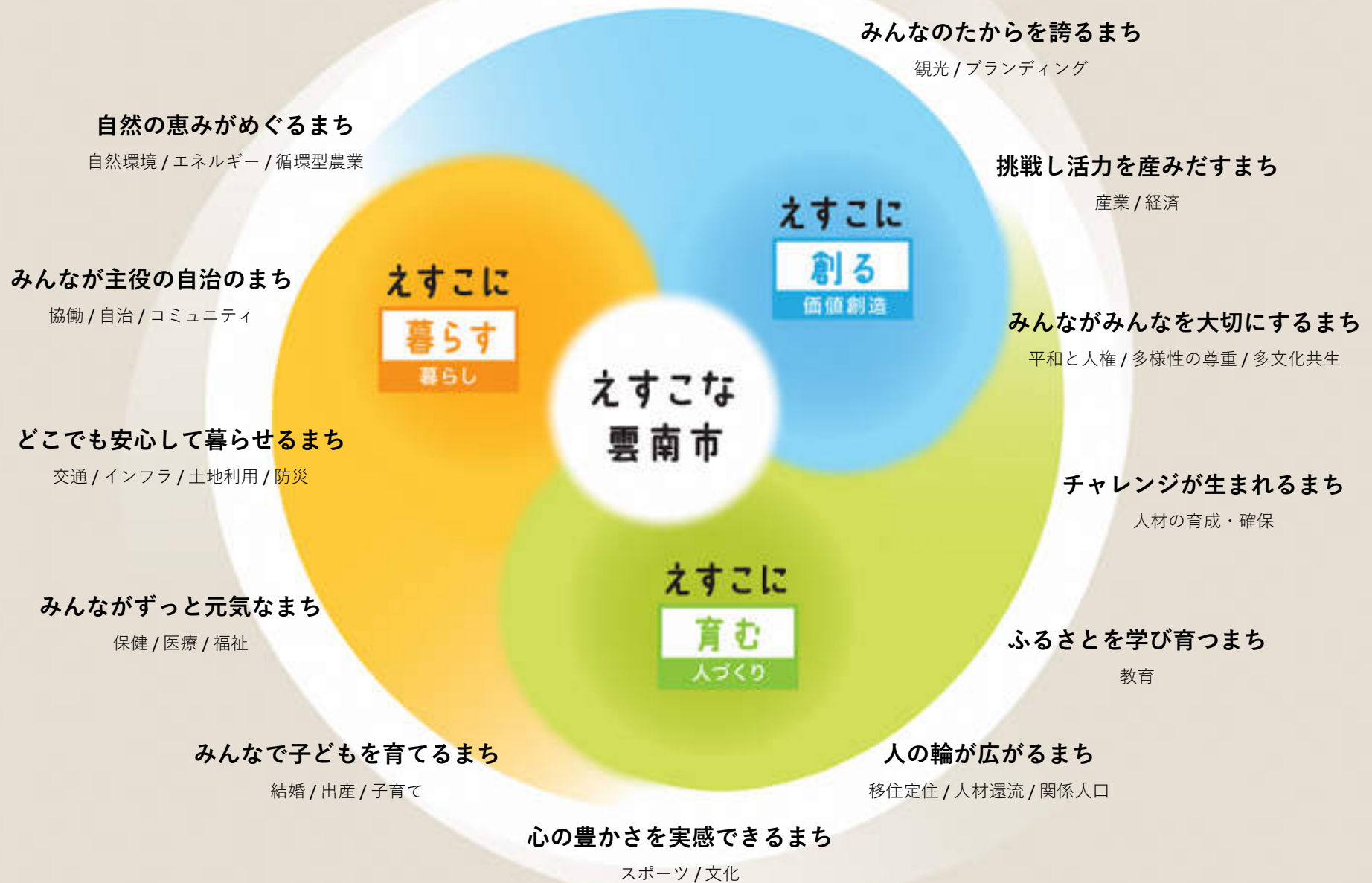


えすこに **創る**

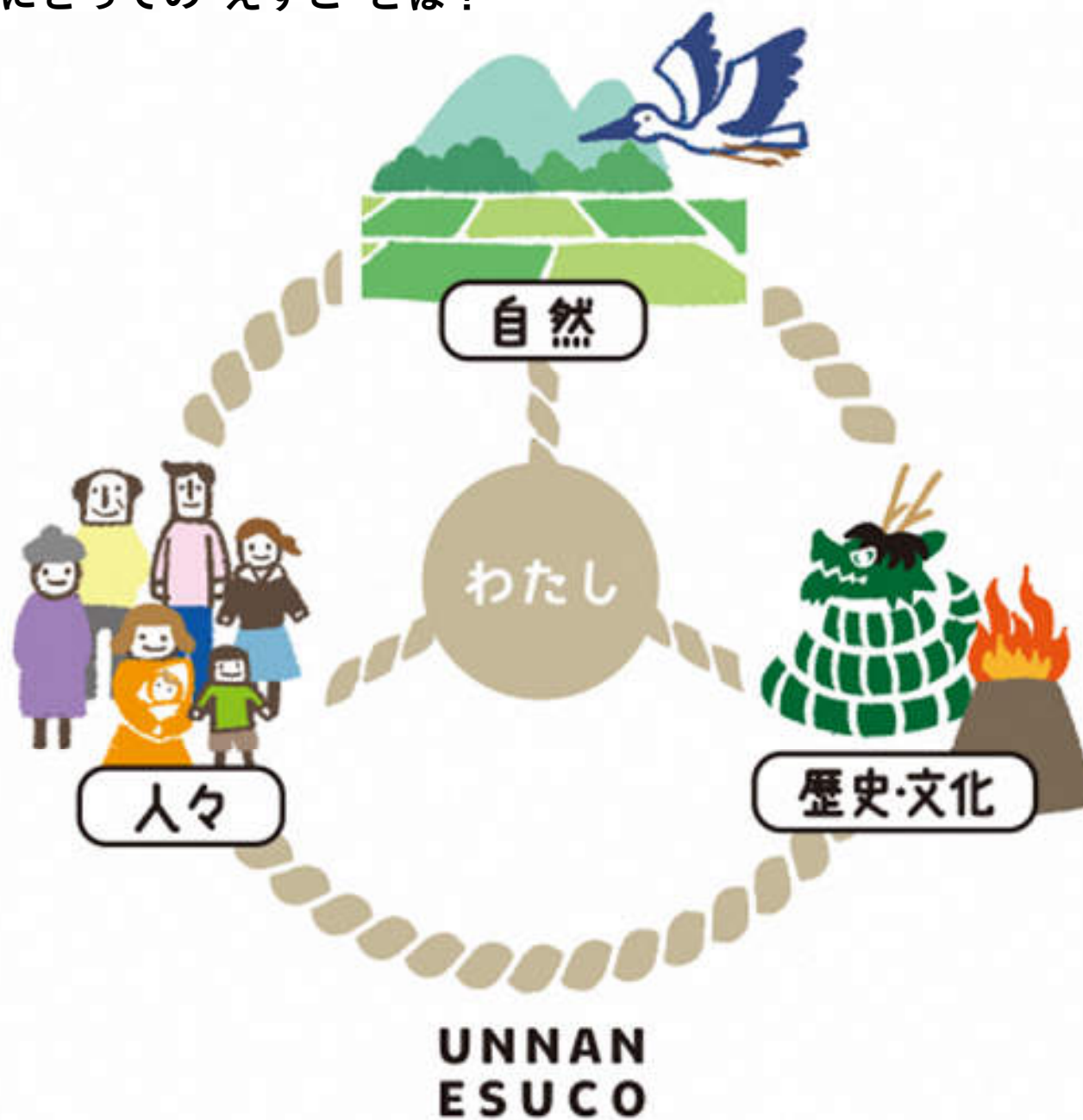
近くの農園で
野菜づくり



7. 基本構想の「3つの柱」と「12の施策」



8. あなたにとっての“えすこ”とは？



9. 基本計画の検討状況

1 2 施策ごとの「施策検討シート」参照
(R6年7月5日時点の検討案)

【施策名】 01. みんなが主役の自治のまち（協働・自治・コミュニティ）	【施策設定の考え方】 まちづくりの基盤となる協働（自治）の力を高めていく。		
1. 10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
地域の特性を活かしたまちづくりが主体的に行われている。	【重点指標】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性 （1）現状・課題	（1）あなたは、まちづくりに関心がありますか？【市民アンケート】		
	（2）住んでいる地域にあなたの居場所と出番はありますか？【市民アンケート】		
	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
	（1）73.8% （2）新規		
＜現状＞ ○人口減少、高齢化により地域力が低下している。 ○地域の中の関係性（つながり）が希薄化している。 ○一人一票制（できるだけ多数かつ多様な人の参画・意見反映による地域運営）で取り組んでいるが、男性主体の傾向がある。 ○子どもや親の地域活動への参加が減少している。 ○若い世代の地域への参画意識が低い。 ○自治会への加入率が低下している。	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
＜課題＞ ○地域のつながりの維持・確保（つながり方やつながる仕組みの再構築） ○子どもや親世代の地域への愛着心（アイデンティティ）の醸成 ○若者や女性、移住者、外国人住民など誰でも地域活動に参加しやすい環境づくり ○個々の意見を大切にし、みんなが関わりやすい仕組みづくり	（1） 地域自主組織を中心に多様な主体や人材が重層的に関わる共助のインフラ（基盤）づくりに取り組みます。		
（2）大切にしないでいくこと（変えないこと） ○住民同士のつながり（個々の価値観に配慮し濃淡を考慮する必要がある） ○地域のアイデンティティ（伝統文化） ○協働、一人一票制の考え方	（2） 地域の担い手確保や関係人口の拡大を支援する新たな仕組みづくりに取り組みます。		
（3）変えるべきこと（変えること） ○地域の寛容性・人権意識（若者や女性、移住者、外国人住民が活躍しやすい環境づくり） ○地域活動の効率化・負担軽減（ワクワクや楽しみも） ○外の力を活かす（関係人口・NPOとの連携など） ○地域間の連携強化	（3） 地域の寛容性の向上や活動の効率化・負担軽減を進め、若者や女性など誰でも参画しやすい環境づくりに取り組みます。		
	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
	（1）若者や女性が活躍できるコミュニティづくり（地域の人権意識の醸成、地域活動のデジタル化、地域組織の見直し） （2）地域の魅力をいかした関係人口づくり、資金調達の仕組みづくり		

【施策名】 02. どこでも安心して暮らせるまち（交通・インフラ・土地利用・防災）	【施策設定の考え方】 交通・インフラ等の機能の充実を図り、その土地に合わせた暮らしやすさを実現する。		
1. 10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
都市と農村それぞれの土地に合った住みよさ・暮らしやすさが感じられる	【重点指標】 あなたのお住まいの地域は便利で住みよい地域だと感じますか？【市民アンケート】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性			
（1）現状・課題			
≪現状≫ ○ドライバー不足により市民バスやタクシーの維持が困難になりつつある。 ○JRの業績悪化により地方路線の減便など見直しが行われようとしている。 ○空き家問題が深刻化し、連坦地においても増えている。 ○公共施設や道路・水道管等のインフラの老朽化が進んでいる。 ○異常気象により災害リスクが高まっている。			
≪課題≫ ○地域交通ネットワークの維持・充実 ○空き家や遊休農地・山林など未利用資源の活用 ○公共施設の維持、適正化 ○地域の防災力向上			
（2）大切にしないこと（変えないこと）			
○最低限必要となる公共サービス、公共インフラの維持・充実 ○市内全域の均衡ある発展（それぞれの特性を活かした地域の活力維持） ○地域の力を活かした防災体制			
（3）変えるべきこと（変えること）			
○地域DX（デジタル技術を活用して暮らしをより良いものに変革していくこと）の推進 ○空き家や未利用の農地・山林などの地域資源の積極的な活用 ○人口減少を見据えた計画的な公共インフラの更新・整備・維持管理（長寿命化） ○地域の防災力を高めるための自助と共助の確立と自治体間等広域連携の強化			
	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
	65.1%		
	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
	（1） どの地域でも安心して暮らせるよう公共インフラや地域交通ネットワークの維持・充実に取り組みます。		
	（2） 防災・減災対策をハード・ソフト両面で進め、市民の安全安心な暮らしを支えます。		
	（3） 空き家や遊休農地など未利用の地域資源の活用を促進し、地域の活力維持に取り組みます。		
	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
	（1）地域の移動・交通システムの再構築 （2）地域における防災・減災対策の推進 （3）空き家や未利用の農地・山林などの地域資源を管理・運用する仕組みの構築 （4）中心市街地の活力維持と周辺地域とのネットワーク強化		

【施策名】 03. みんながずっと元気なまち（保健・医療・福祉）	【施策設定の考え方】 住み慣れた地域で元気に暮らし続けられる環境づくりを進める。		
1.1 0年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
支え合いや保健医療福祉サービスの充実により、誰もが健やかに暮らしている	【重点指標】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性	①助け合える地域であると感じる市民の割合【市民アンケート】		
（1）現状・課題	②日常的に健康づくりに取り組んでいる市民の割合【市民アンケート】		
≪現状≫ ○地域医療・福祉の担い手が不足している。 ○健康づくりや介護予防活動の情報が十分に行きわたっていない。 ○元気な高齢者が多い一方で、健康無関心層が一定数いる。 ○住民同士のつながりが希薄化し、地縁によるつながりだけで地域の支え合いを維持していくことが難しくなっている。 ○開業医の高齢化や閉院により、雲南圏域の医師偏在指数が低下している。	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
	①73.6% ②63.7%		
≪課題≫ ○地域医療・福祉の担い手の確保 ○地域のつながりの維持と“新しい共助・支えあい体制”の構築 ○未来共創型ネットワークを通じた病院間の機能分化、情報連携の推進 ○情報発信の強化や地域自主組織等の活動を通じた健康づくりの意識醸成	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
	（1） 健康長寿・生涯現役をめざし、みんなが暮らしの中で楽しみながら健康づくりに取り組める環境づくりに取り組みます。		
	（2） 必要とする人が必要な保健・医療・福祉サービスを受けられる地域をめざし、提供体制の最適化に取り組めます。		
	（3） 誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて公助、共助のそれぞれの特性をいかして連携を密にし、地域の支える力を高めます。		
（2）大切につないでいくこと（変えないこと） ○住民同士のつながり（地域ぐるみでの支えあい） ○地域自主組織や地域で活動する多様な人材等との連携 ○医療・福祉サービス提供者同士の顔の見える関係性	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
（3）変えるべきこと（変えること） ○市民が主体的に健康づくりに取り組む意識の醸成 ○官民連携の強化による暮らしの中での健康づくり ○一人ひとりが居心地のよい関係性づくり	（1）地域医療・福祉サービスの担い手確保 （2）地域のつながりの維持と支えあい体制の充実		

【施策名】 04. みんなで子どもを育てるまち（結婚・出産・子育て）	【施策設定の考え方】 地域の力を活かし子育てしやすい環境づくりを進める。		
1.1 0年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
家族や地域のあたたかなつながりの中で安心して子どもを育てられている	【重点指標】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性	①地域の子育てに対する理解や関心が高いと感じる保護者の割合【市民アンケート】		
（1）現状・課題	②子育てしながら働きやすいと感じる保護者の割合【市民アンケート】		
＜現状＞	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
○子育て環境の魅力（市の様々な支援）が子育て世代に伝わっていない。	①75.6%		
○出生数が減少し、保育環境にも影響が出ている。	②47.3%		
○子育てに不安がある親は増えているが、相談体制が充実し早期の支援につなげられている。			
○若者が将来の結婚・子育てのイメージを描けていない。			
○正しい生活習慣が確立されない家庭が増えている。			
＜課題＞	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
○親が孤立しない環境づくり（地域の協力や相談窓口の充実）	（1）		
○非婚化・晩婚化への対応（若い世代の結婚・妊娠・出産・子育てへの理解促進）	豊かな環境の中で健やかに遊び、育つ、雲南だからできる子育て環境づくりに取り組みます。		
○男性の育児参画の促進	（2）		
○親子や子ども同士で安心して遊べる場の確保	地域や事業者とともに、安心して子育てしながら働ける環境づくりに取り組みます。		
（2）大切にしたいでいくこと（変えないこと）	（3）		
○地域や地域団体と連携したあたたかな子育て環境	若い世代の結婚、子育てへの意欲を高め、その希望を叶えられる環境づくりに取り組みます。		
○充実した子育て支援制度	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
（3）変えるべきこと（変えること）	（1）雲南らしさをいかした子育て環境の整備		
○結婚・妊娠・出産・子育てに関する効果的な情報発信	（2）市内事業所の子育て環境の充実支援		
○世代間交流の場の設置によるつながりの創出	（3）非婚化・晩婚化対策の推進		
○子育てしながら働きやすい環境づくり			

【施策名】 05. 人の輪が広がるまち（移住定住・人材還流・関係人口）	【施策設定の考え方】 関わりたい、帰ってきたい、暮らしたいまちを実現する。		
1. 10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
雲南に愛着を持ち、まちづくりに関わる人の輪が広がっている	【重点指標】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性	(1) 人口の社会動態		
(1) 現状・課題	(2) 関係人口の人数		
《現状》	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
○県外進学者のUターンの力が弱い。			
○市内に若者や女性が希望する職種が少ない。			
○チャレンジの取り組みにより関係人口が増えているが十分に活かしていない。			
○ふるさと・キャリア教育により子どもたちの地域への愛着は高まっている。			
○住みたい田舎ランキングで3年連続1位を獲得（支援制度が充実している）。			
《課題》	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
○県外進学者とのつながりづくり（継続的な情報発信）	(1)		
○企業誘致、起業創業支援などによる多様な働き場の確保	若者や子育て世代を主なターゲットにした移住定住対策に取り組みます。		
○高校や大学と連携した市内就業に向けた対策の強化、仕組みづくり	(2)		
○人材還流の起点となる市内高校の魅力化の推進	市外県外で暮らす本市出身の学生・社会人とのつながりづくりを進め、人材還流の促進を図ります。		
○関係人口の拡大とまちづくりに関われる仕組みの検討	(3)		
○デジタルを活用した新しい働き方の推進	農ある暮らしなど雲南らしい暮らしに共感する若者やアクティブシニア（※）の移住支援に取り組みます。		
(2) 大切にないでいくこと（変えないこと）	※健康志向で仕事や趣味に意欲的に取り組む活発な高齢者		
○チャレンジを後押しする環境	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
○豊かな子育て環境	(1) 雲南での暮らしや働くスキルを学べる仕組みの構築		
○地域と学校が協働で子どもの学びを支え、応援する環境	(2) 市内就業に向けた対策の強化／多様な働く場・働き方の創出		
(3) 変えるべきこと（変えること）	(3) 二地域居住や短期滞在など多様なライフスタイルに合わせた滞在環境づくり		
○わかりやすい情報発信とプロモーション			
○雲南ファンの獲得、継続的に関われる仕組みづくり			
○テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方ができる環境づくり			
○まちぐるみで人材の採用・育成を行う仕組みの構築			
○短期中期で滞在できる拠点の確保			

【施策名】 06. 心の豊かさを実感できるまち（スポーツ・文化）	【施策設定の考え方】 多様なライフスタイルが実現できる環境づくりを進める。		
1.1 0年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
楽しみながら自分らしい豊かな暮らしが実現できている	【重点指標】		
	（１）週1回以上（1回30分以上）スポーツや運動をしている市民の割合【市民アンケート】 （２）文化芸術に親しんでいる市民の割合【市民アンケート】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
（１）現状・課題	（１）34.8 （２）40.9		
＜現状＞			
○スポーツの指導者や伝統文化の継承者の高齢化（担い手不足）			
○高齢者の平均寿命、自立期間、社会参加率は全国的に高い（身体教育医学研究所の活動成果）			
○地域の文化や伝統行事を守ることに対する若者世代の負担感の拡大			
○ユニバーサルスポーツの普及（ポッチャなどを通じた健康・障がい格差を埋める活動の広がり）			
○スポーツ・文化施設の老朽化			
○こどものスポーツ離れ（意欲・体力の低下）やニーズの多様化			
＜課題＞			
○気軽にスポーツや文化芸術活動を楽しめる環境づくり			
○地域の伝統芸能（神楽等）や行事・お祭りの継承			
○スポーツ協会の組織や活動の見直し			
○中学校部活動の地域移行への対応（受け皿づくり）			
○公認スポーツ指導者（特にジュニア世代）の育成			
○ユニバーサルスポーツの普及			
（２）大切にしたいこと（変えないこと）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
○地域、人とのつながり	（１） 島根かみあり国スポ・全スポを契機として、誰もが「する」「みる」「ささえる」ことができるスポーツ機会の充実と環境整備に取り組めます。		
○高齢者の社会参加、活躍の場の創出	（２） 地域の歴史や幅広い文化芸術にふれ、学び合える機会の充実に取り組めます。		
○地域運動指導員の活動の維持・継続	（３） 地域の文化や伝統行事の価値・魅力を伝え、これを活かした住民の交流活動を推進します。		
○たたら文化や銅鐸などのホンモノにふれる機会	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
（３）変えるべきこと（変えること）	（１）部活動の地域移行の推進		
○誰もが興味関心のあるスポーツを楽しめる環境づくり	（２）全世代がスポーツを楽しめる環境づくり		
○多様な文化芸術活動にふれる機会の充実	（３）幅広い文化芸術活動や地域の伝統芸能を体験・実践できる機会の創出		
○地域の伝統行事・芸能に新たな価値観や仲間を受け入れる環境づくり（意識醸成）			

【施策名】 07. ふるさとを学び育つまち（教育）	【施策設定の考え方】 こどもたちの社会を生き抜く力と地域への愛着を育む。		
1. 10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
地域の温もりのなかで学び合い、ふるさと雲南を愛する人にあふれているまち	【重点指標】 ふるさと雲南を意識した進路（人生）選択をしたこどもの割合		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性			
（1）現状・課題			
＜現状＞ ○多様化・複雑化した教育ニーズの増加 ○困難さ（学校に行きづらさを感じる児童生徒）や特別な配慮が必要な児童生徒の増加 ○教育環境（特に学校施設）の老朽化と給食・スクールバスなど教育基盤の維持の困難化 ○基礎的な学力（読み・書き・計算）の未定着や体力の低下傾向 ○デジタル社会、情報化社会への対応の遅れ	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
＜課題＞ ○少子化、社会環境の変化、家庭の経済力・文化資本の差異による教育課題への対応 ○教育課題の多様化による財源不足への対応 ○地域及び学校の教育資源の先細り（特に人口減少、高齢化、教員不足）への対応 ○都市と地方の教育機会格差への対応（テック、放課後、スポーツ・文化活動における官民連携） ○福祉的側面を踏まえた学校・地域・行政の連携（行政内連携を含む） ○社会の変化（トレンド）・学力観の転換（大学入試改革等）への対応			
（2）大切にしたいこと（変えないこと）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
○地域とともにある学校づくり ○ふるさと教育（ふるさとへの愛着・誇り・貢献意欲を育む教育の推進） ○キャリア教育（主体性・創造性など実社会で活かされる力を育む教育の推進） ※前提となる環境／基盤…安全・安心、対話、多様な挑戦（チャレンジ）への応援や共感 ○個に応じたこども支援（誰一人取り残さない個別最適な教育の推進）	（1） 知恵と勇気と誇り（※）をもつ雲南の人づくりを進めます。 ※知恵…未来を切り拓く力、勇気…心豊かでたくましい心情、誇り…ふるさとを愛する心情 ＜ポイント＞上代タノさんや永井隆さんが大切にされた理念の継承。人生100年時代・将来予測が困難な時代を自立して生き抜く力の育成。		
	（2） 誰もが好奇心に応じた学びに接続でき、夢や希望を抱くことのできる選択肢にあふれる学びの場づくりを進めます。 ＜ポイント＞学びの出発点は好奇心。興味・関心、学びのスピード、特性もみんな違うことを認め合い、誰一人取り残さない・誰もの可能性を伸ばすキャリア教育を推進。		
	（3） 教育資源（※）を結集し、こどもを真ん中にした教育環境づくりを進めます。 ※教育資源…地域のヒト・モノ・コト、教職員、施設、デジタル機器、自然、歴史・文化 など ＜ポイント＞限られた教育資源の有効活用。未来思考、スマートで効率的・複合的、快適さにあふれる教育環境づくりを推進。		
（3）変えるべきこと（変えること）	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
○こどもを真ん中に据えた教育環境・学校づくり ○学校・家庭・地域社会との適切な役割分担の再構築 ○グローバルな（多様な価値観に触れることのできる）教育環境づくり ○デジタル技術の活用・浸透による教育現場の変革（DX化）の推進 ○根拠に基づく政策立案（EBPM）を踏まえたPDCAサイクルの確立（数値目標の設定）	（1）豊かな人間性を育み、学ぶ力と創造力を高める教育環境づくり （2）学校・家庭・地域（企業・NPO等含む）の連携・協働による教育環境づくり （3）こどもたちの笑顔にあふれる学校づくり		

【施策名】 08. チャレンジが生まれるまち（人材の育成・確保）	【施策設定の考え方】 チャレンジしやすい環境づくりを進め、多分野の人材確保を図る。		
1. 10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
チャレンジの土壌がさらに耕され、多分野で多様なチャレンジが生まれている	【重点指標】 あなたは、雲南市が、子どもから大人まで、様々な地域課題(地域の困りごと)への対応に向けた新たな試みに取り組みやすい(挑戦しやすい)まちであると感じますか？【市民アンケート】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性			
（1）現状・課題			
＜現状＞ ○あらゆる分野で人材不足が進んでいる。 ○起業家や事業者による学び合いのコミュニティができている。 ○チャレンジの取り組みへの参加者が限定的。 ○市外、県外からの若者・女性の移住につながっている。 ○都市部企業や起業家とのネットワークが広がっている。	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
	42.6%		
＜課題＞ ○チャレンジの裾野の拡大 ○チャレンジの多分野への展開 ○持続的な財源の確保（お金の流れ・資金調達の仕組みづくり）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
	（1） 子ども、若者、大人、企業によるソーシャルチャレンジを進め、社会を変革するチャレンジャーを多分野で生み出します。		
	（2） 様々な分野の担い手を横断的に育み、活躍できる環境や仕組みづくりに挑戦します。		
	（3） チャレンジを応援する新しい資金調達の仕組みをつくれます。		
（2）大切にしたいこと（変えないこと） ○チャレンジの基盤（中間支援機能） ○チャレンジとチャレンジを応援する文化 ○官民連携の体制	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
（3）変えるべきこと（変えること） ○多分野での地域外の実践者との学び合いの場の創出 ○チャレンジしやすい環境の充実（宿泊・移動） ○チャレンジを応援する制度の充実	（1）雲南での暮らしや働くスキルを学べる仕組みの構築 （2）スペシャルチャレンジ制度などチャレンジ支援の充実 （3）ソーシャルビジネスの起業創業支援の充実		

【施策名】 09. みんながみんなを大切にすまち（平和と人権／多様性の尊重／多文化共生）	【施策設定の考え方】 地域の人権意識を高め、みんなが暮らしやすいまちを実現する。								
1. 10年後のあるべきまちの姿 「『平和を』の都市宣言」の精神に基づき、お互いの価値観を尊重し、みんながいきいきと安心して暮らしている	3. 施策の成果指標（KPI） 【重点指標】 あなたは、性別などに関係なく誰もが平等に扱われていると感じますか？【市民アンケート】								
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性 （1）現状・課題 ＜現状＞ ○LGBTQ（心と体の性が一致しない人）など人権課題に対する理解が低い。 ○移住者や外国人住民などに対する寛容性が低い。 ○性別での役割分担など特定の価値観を押し付けようとする地域の慣習が残っている。 ＜課題＞ ○市民、企業、養育者への人権等の学習機会の提供や啓発を増やす必要がある。 ○地域での学習や相談体制の充実 ○外国人住民に対する地域の受入れ環境づくり	<table><tr><th>現状値 2023(R5)年度</th><th>中間目標値 2029(R11)年度</th><th>最終目標値 2034(R16)年度</th></tr><tr><td>67.5%</td><td></td><td></td></tr></table>	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度	67.5%				
現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度							
67.5%									
（2）大切にしないでいくこと（変えないこと） ○地域社会でのお互いを思いやること（恩返し、恩送りの精神） ○「平和を」の精神（基本的な人権を守る姿勢、社会教育）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況 （1） お互いのいのちと人権を尊重し、「平和を」のまちづくりに取り組みます。 （2） 地域の寛容性を高め、様々な違いを持つ人たちが楽しく、いきいきと暮らせる環境づくりに取り組みます。 （3） ハンディキャップ（※）を抱える人に配慮したまちづくりを進めます。 ※個人の要因ではなく、社会的な仕組みや価値観、物理的な構造から生じる不利な状態を指す（世界保健機関（WHO）より）								
（3）変えるべきこと（変えること） ○多様性の尊重（学習機会の提供、市民参加の促進） ○多文化共生の推進 ○あらゆるハラスメントの根絶 ○排斥することなく大らかに受け入れる「寛容性」	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況 （1）家庭、学校、地域、職場での様々な体験・学習機会の創出 （2）集落単位で人権意識、多文化共生など多様性への理解を浸透させる草の根プロジェクトの推進								

【施策名】 10. 挑戦し活力を産みだすまち（産業経済）	【施策設定の考え方】 国内外へマーケットを拡大し、経済価値を高め、地域の活力を産みだす。		
1.1 0年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
新しい発想や挑戦により稼ぐ力が高まっている	【重点指標】 ①あなたは、市内の農林業や観光、商工業などの産業は元気で活力があると感じますか？【市民アンケート】 ②地元購買率		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性			
（1）現状・課題			
＜現状＞ ○高齢化、後継者不足により商工業や農林業の維持・承継が難しい事業者が増えている。 ○事業者のDX化が遅れ、事業革新（イノベーション）の動きが弱い。 ○域内のマーケットが縮小し、廃業する小規模事業者が増えている。 ○物流・資材コストが高騰し、収益性を圧迫している。 ○付加価値が価格に転嫁できていない（収益性が低い）。 ○若者によるソーシャルビジネス（社会起業）の立ち上げや地域おこし協力隊による新たな事業創出の動きがある。	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
	①27.6% ②87.3%		
＜課題＞ ○地域の未利用資源を活用した新しいビジネスの創出 ○県外、海外へのマーケットの拡大（商品の高付加価値化・ブランド化やマーケティングの強化） ○市内事業者の人材・労働力の確保やDXの推進などの経営基盤の強化 ○若手の事業者や起業創業に関心をもつ若者等が学び合い、挑戦し合うコミュニティづくり	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
（2）大切にしないでいくこと（変えないこと）	（1） 地場産業の振興と域内消費の拡大を図り、市内での経済循環を高めます。		
○豊かな地域資源 ○全国で認知されている安全安心な農産物・食品ブランド	（2） 豊かな環境や資源を活かした付加価値の高い商品や事業を生み出し、国内外へマーケットの拡大を図ります。		
	（3） 地域の産業を支える人材の確保に取り組みます。		
（3）変えるべきこと（変えること）	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
○地域資源・地域特性（豊かさ）の経済価値への転嫁 ○企業同士、起業家同士の連携の仕組み ○市内事業者のDX推進 ○市内での経済循環の促進	（1）市内事業者の経営基盤強化に向けた支援（人材確保・DX推進） （2）市内経済循環の推進 （3）企業誘致の推進 （4）産直振興・地産地消の推進 （5）地域商社の立ち上げによる地産都消の推進		

【施策名】 11. みんなのたからを誇るまち（観光・ブランディング）	【施策設定の考え方】 地域資源を活かしたくさんの雲南ファンとつながりをつくる。		
1.10年後のあるべきまちの姿	3. 施策の成果指標（KPI）		
世界に誇る歴史文化や資源を通じて国内外の雲南ファンとつながっている	【重点指標】 ①あなたは、市内の農林業や観光、商工業などの産業は元気で活力があると感じますか？【市民アンケート】 ②観光入込客数		
	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性			
（1）現状・課題			
＜現状＞ ○観光施設の数が多く、老朽化が進んでいる。 ○雲南ファンが一部にとどまり、広がっていない。 ○民間事業者の活動が活発になっている。			
＜課題＞ ○神話やたたらの資源を活かしたブランド力の向上 ○民間活力を活かした観光客の受け入れ体制の強化 ○出雲空港からのアクセス向上、二次交通の充実 ○広域観光、インバウンドの推進 ○里山や生活文化など雲南らしさを活かした新たな観光戦略づくり			
（2）大切にないでいくこと（変えないこと）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
○郷土愛、ふるさとの愛着 ○歴史、文化、伝統芸能、自然、食	（1） 神話やたたらなど雲南独自の価値や魅力を活かし、ブランディングを図ります。		
	（2） 広域観光やインバウンド（訪日外国人旅行）の推進に取り組みます。		
	（3） 豊かな里山の環境や生活文化を活かした観光地域づくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。		
（3）変えるべきこと（変えること）	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
○民間事業者との連携強化（多様な民間プレーヤーの育成と活用） ○里山や生活文化など雲南らしさを活かした新たな観光戦略づくり ○インバウンドの推進 ○二次交通の充実	（1）豊かな自然環境、歴史文化、食や人の魅力を活かした観光地域づくりの推進 （2）外国人観光客など多様な旅行スタイルに応じた受け入れ体制・環境の整備 （3）観光情報の発信強化 （4）観光施設の魅力化		

【施策名】 12. 自然の恵みがめぐるまち（自然環境・エネルギー・循環型農業）	【施策設定の考え方】 自然との共生を進め、持続可能な社会の実現をめざす。		
1. 10年後のあるべきまちの姿 自然の恵みを活かした持続可能な循環モデルが確立されている	3. 施策の成果指標（KPI） 【重点指標】 環境美化等の環境の保全・創造に向けて何らかの取組をしている市民の割合【市民アンケート】		
2. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性 （1）現状・課題	現状値 2023(R5)年度	中間目標値 2029(R11)年度	最終目標値 2034(R16)年度
＜現状＞ ○脱炭素社会実現計画に基づいた取り組みが進みつつある。 ○省エネや環境への意識が高い一方で、事業者の対応は遅れている。 ○市内事業者に補助金制度に対する認知が広がっていない。 ○市内のエネルギー消費額が市外に流出している。 ○太陽光の導入や市産材の活用にはコスト面がハードルとなっている。	67.1%		
＜課題＞ ○未利用資源の利活用の促進 ○農林畜産物の高付加価値化（脱炭素、生物多様性の活用） ○J-クレジットを活用した市内経済循環の仕組みの構築、新たな財源の獲得 ○国、県の補助制度を活用した対策の推進（市内事業者への情報提供）	4. 基本方針（施策を進める上での基本となる考え方） ※7／5時点の検討状況		
	（1） 雲南らしさを活かした脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。		
	（2） 人と自然が調和する豊かな農山村や生物多様性の保全に取り組めます。		
	（3） 地域や事業者とともに、環境保全活動の推進や環境意識の向上に取り組めます。		
（3）変えるべきこと（変えること）	5. 重点事業（注力する取り組み） ※7／5時点の検討状況		
○消費者の意識改革（地域内経済循環、地産地消） ○DXの推進（農山村管理、省力化、効率化、人材確保） ○環境に配慮した農林業、商業の推進（生物多様性、高付加価値化） ○エネルギーの地産地消	（1）地産地消による再生可能エネルギーの推進 （2）ごみの減量化とリサイクル率の向上 （3）環境に配慮した農業の推進		